

地しんがあつてこそ学んだこと

今から、十年前、一月七日に兵庫県で大地しんがありました。そのころは、私は生まれただばかりで地しんなんていうものがあることさえしりませんでした。そして、去年十月二十三日に私たちの町、長岡で大地しんがおきました。そのことをきっかけに、一生忘れられない十月二十三日になつてしまいました。こうバ市の地しんと中越地しん、この二つの地しんをとおして、私は悲しみもあつたけど、それ以上に学んだことがたくさんあります。そして、私が地しんが起きて一番最初に書いた詩が、これです。

十月二十三日のできごと

十月二十三日

文化祭の前の日

とつぜん クラッ

私たちの町 長岡を

大きな地しんがおそった

すぐ松の下に入って

三回目の地しんが終った時

さつと外に出た

外に出たら

近所の人がたくさんいた

「大丈夫？」

と声をかけてくれた時

は本当にホッとした

みんながいて

本当によかった

これが一番心に残っている詩です。私が地

しんがあってこそ学んだことは、人のやさし

さです。人のやさしさがあつたからこそ今の

自分がいるんだと、私は思います。